

【基盤研究(S)】

人文社会系 (社会科学)



研究課題名 政策情報公開の包括化・国際化・ユニバーサル化

政策研究大学院大学・政策研究科・教授

ますやま みきたか
増山 幹高

研究分野：政治学

キーワード：公共政策

【研究の背景・目的】

情報公開制度の整備や公文書管理法の制定により、政府の情報管理体制は整いつつあり、電子政府の試みも成果を挙げてきています。しかし、わが国の政策情報の公開・発信は行政情報に偏り、立法情報も含めた包括化が課題となっています。

国内向けの情報公開が途上にある段階では、政府による政策情報の国際的な公開にも限界があります。しかし、国際水準の政策情報を国内外に公開・発信することは、わが国の政策的現状を国際的な比較の地平に位置づけ、国際的な理解を促進する基盤として非常に有益です。

この研究では、政策情報の公開・発信のあり方を問い直し、誰しもが必要な政策情報を効率的に入手する方策を検討していきます。

【研究の方法】

具体的には、政策研究大学院大学を研究拠点とし、東京大学、京都大学、国会事務局との連携を図るとともに、以下を実施します。

1. 情報公開の効果検証

行政文書の管理・開示や電子化に限定されてきた政策情報供給の効果を検証します。

2. 政策情報の包括化

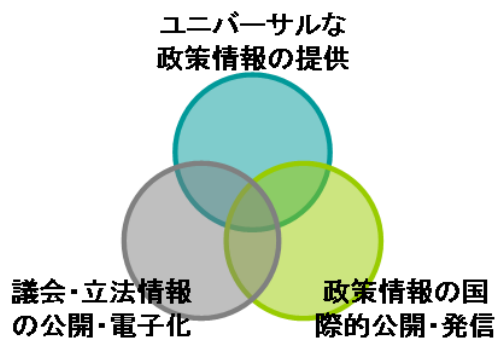
立法府の政策情報公開を促進し、政府に関する情報公開の包括化を図ります。

3. 政策情報の国際化

政策情報を英文で公開・発信し、わが国の立法に関する国際的な理解・研究の基盤を提供します。

4. 情報公開のユニバーサル化

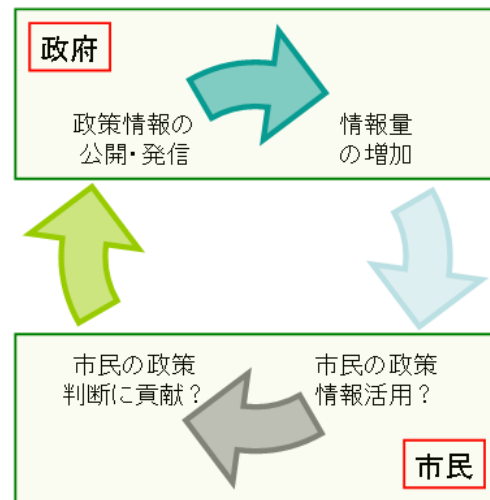
政策的知識やIT・言語能力に制約されない電子化情報の公開方法を試行します。



【期待される成果と意義】

われわれの問題意識は、果たしてこれまでの政策情報の量的増加が市民の政策判断に寄与してきたのだろうかということにあります。そうした疑問に答えることによって、誰しもが必要な政策情報を効率的に入手できるような情報公開のシステムを構築するという提言も初めて可能になると考えています。

この研究を通じて、われわれは従来の政策情報公開の効果を実証的に検証するとともに、憲法的に組織連携の難しい立法府の政策情報を統合的に提供するポータルサイトを運用し、ユニバーサルな政策情報公開という観点に立った行政や立法に関する情報公開方法を試みていきます。



【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- 増山幹高，内閣不信任の政治学－なぜ否決される不信任案が提出されるのか？－，年報政治学 2009－I，79－109頁，2009年。
- 増山幹高，議会制度と日本政治－議事運営の計量政治学－，木鐸社，1－300頁，2003年。

【研究期間と研究経費】

平成22年度－26年度
100,400千円

【ホームページ等】

<http://www.grips.ac.jp/jp/>